

セブ・プログラムアンケートのお願い

参加期間： 2013 年 9 月 16 日 ～ 9 月 22 日 1 週間

参加動機：

シルバーウィークに休暇が取れたので、ネットで旅行サイト等を見ていたら、たまたまボランティアツアーというのを発見しました。せっかく取れた休みに何か有意義なことがしたいと思い参加しました。

ボランティア活動に関して：

活動先施設の名前 マザーテレサ教会が運営する孤児院 MISSIONARIES OF CHARITY

具体的な活動内容とスケジュールを教えてください。時間に関してはおよそで結構です。

午後 14：30～17：00 まで孤児院でボランティア
主な活動内容は子供達と遊ぶ、夕食を食べさせる

活動中のエピソード：難しかったこと、楽しかったこと、感心したこと、困ったこと等、何でもお聞かせ下さい。

17 歳の女の子が孤児院におり、小さい子供達の面倒をみていて感心しました。食事の際に私たちが食事を口に運んでも食べてくれない子がいたのですが、その子の手にかかるとパクパクと食べていました。

特に子供たちと遊ぶため、又は何かを教えるために、事前に用意されたこと・教材等ありましたら、参考までに教えてください。

折り紙やパズル、お絵かき帳を持って行きましたが、施設の子供は小さい子が多く、紙などを食べてしまうおそれがあるとのことで、持っていった物は使いませんでした。日本から持っていた物は英会話教室でお世話になった先生にお渡しし、ストリートチルドレンのボランティアに使ってもらうことにしました。

生活面に関するご質問：

滞在先ホテルについてはいかがでしたか。

ホテルのスタッフがとても親切だったのと、朝食が無料で付いていたのが助かりました。

また、ホテル近くにコンビニや食事をする場所があり、過ごしやすかったです。

滞在先ホテルからボランティア先までの移動手段（タクシーでの所要時間・料金など）を教えてください。

4 人以上で行く場合、行きはジプニーで行きました。タクシーより時間はかかりますが安く 1 人 10 ペソ（付き添ってくれるスタッフの分を含む）でした。

タクシーで行く場合は混雑状況によりますが、大体 20 分くらいかかり、片道 120 ペソくらいでした。（こちらはボランティアメンバーで割り勘）

食事はどのようにしましたか、料金は？

昼食は大体ホテルで食べ、夜は皆で外に食べに行っていました。

日によってコーディネーターのお勧めの場所に連れて行ってもらいました。

昼食はホテルで食べれば、100～150 ペソくらい、外食をすると 200～250 ペソくらいかかりました。夜は場所によって異なりますが平均 200～300 ペソくらいかかりました。

滞在した地域でお勧めの場所は？（お店・レストラン・ショッピングモールなど）

- ・アヤラ・モール
- ・ホテル目の前の屋台（ここの揚げバナナが美味しい）

コーディネーターのセッションに関して：（○で囲んでください）：

非常に良かった 良かった 普通 良くなかった 悪い

感想：

大体毎日コーディネーターはホテルに来てくれました。参加者が多かったので個別セッションは最初のオリエンテーションしかなかったのですが、皆の「○○に行きたい！」「○○をやりたい！」という要望に迅速に対応してくれました。

オプションツアーに参加された方へ

どこに行かれましたか？ どれくらい時間・料金がかかりましたか。

ボホール島 1 日観光 約 3,000 ペソ

ボホール島では川を走る船上のレストランで昼食を食べました。バンド付きで乗船しているお客さんの国の歌を歌ってくれ、素晴らしいパフォーマンスでした。日本の歌は「上を向いて歩こう」と「YMCA」を歌ってくれました。また、食事の途中で川辺の小屋？（のようなところ）に立ち寄り、現地の方々ショーがあり、現地の人に教わりながらバンブーダンスを体験しました。早朝のフェリーの出航が 2 時間以上遅れましたが、フィリピン最古の教会にチョコレートヒルズ、世界最小の猿ターシャの見物と見るべきスポットは全て制覇でき、充実した 1 日でした。

オプションのプライベート英語レッスンを受けられた方へ

レッスン内容はいかがでしたか。

英語レッスンは 2 人の先生の授業を受けましたが、どちらの先生も気さくでフレンドリーであっという間に時間の過ぎてしまう楽しい授業でした。

以前、アメリカ人の先生の英語レッスンを受けたことがあるのですが、もう少し冷たい感じでした。それとは対照的にフィリピン人の先生は分からなくても笑顔でアドバイスしてくれ、もっと英語を勉強したい！という気持ちにさせられました。

また、授業の他にフィリピンのマストフード（Green Mango, trone, camote cue, Lechon, ）等を教えてくれ、紙にも書いてくれたので、帰るまでになるべくトライしました。

どれくらいの時間数、レッスンを受けられましたか。

1 日約 2 時間を 3 日間受講

ホテル又はボランティア先から英語学校まで、どのように移動されましたか。料金は？
ホテルからタクシーで30~40分、約130ペソと一緒に通うメンバーで割り勘しました。

今後このプログラムに参加する人たちの為に：

持参したほうが良いもの（生活のうえで、又ボランティア活動のために）

- ・ もしあれば、SIM free 携帯
（これを持っていくと現地のSIMを入れると携帯が使えます。SIMは空港などの自販機で簡単に購入できますし、日本でも取り扱っている会社がありますので事前に購入できます。
ボホール島に行った際、往復ともにフェリーが遅れたので迎えにくるコーディネーターとの連絡に重宝しました。）
- ・ 虫除けスプレー、ムヒ、
- ・ ボランティア施設に何か持っていくとしたら、おもちゃより、古着やタオル等の方が喜ばれそうな気がしました。

ボランティア先での心得(注意すべき点、やってはいけない事、やったほうが良かった事など)

- ・ 孤児院に本があるのですが、小さい子供が本を破って食べてしまうおそれがあるので片付けるように言われました。

衛生面、食べ物、飲み物などで気をつけたほうがよいと思ったこと

- ・ 現地のスーパーではフレッシュフルーツが安く売っており、その場でカットしてくれるところもありますが、カットフルーツでお腹をこわしたボランティア仲間がいたので、カットはホテルで頼んだほうが安心だと思います。
- ・ 外食をしても日本のおしぼりがないので、ウェットティッシュは結構重宝しました。

最後に、今回海外でのボランティアプログラムに参加しての感想をお願いいたします。

このプログラムに参加するにあたり、孤児院の子供達に日本から色々な物を持っていこう！と思いましたが、終わってみると物は必要なかったような気がしました。子供たちは貧しくて物が無くても、この状況でどう過ごすかという術を知っているようでした。孤児院の子供たちは実際に親が居なくて養子に出されるような子供が半数、その他の子供は親はいるけど、貧しくて子供を育てることが困難で預けられる子や病気になった際に薬代を工面することができず、孤児院に預けられる子供が半数だそうです。そんな子供達に対して、物を与えるより、愛情を持って接してあげることが一番だと感じました。

子供たちは貧しい環境の中でも皆澄んだ目をしていて、言葉が通じなくてもすぐに寄って来てくれ、とにかく一緒に遊ぼう！というのを全身で表現していました。自分がボランティアをしているという感覚より、子供達から学ぶことの方が多かったです。数日間で本当に自分は子供たちの役に立てたのか？自己満足なんじゃないか？一緒に遊んでくれるお兄さん、お姉さんができた！と思ったら突然翌日から来なくなってしまうたら、困惑するし、寂しい思いをするのではないかと考えると、本当に自分が役に立てたのか自信がありません。

孤児院周辺は貧しい地域でそこに住む子供たちは皆痩せていましたが、人懐っこく、いつも私たちが道を通るたびに寄って来てハイタッチや日本語で挨拶をしてくれました。私はそういう貧しい地域では食べ

物やお金を求められるのだろうと想像していたのですが、孤児院周辺では全くそういうことはされませんでした。彼らはその貧しい地域で自立して生活しているのだと感じました。

逆にショッピングモール近くやタクシーに乗っている時の方が食べ物を求められることが多く、驚きました。日本ではホームレスを見かけることはあっても、ストリートチルドレンを見かけることはなかなかないと思いますが、フィリピンではストリートチルドレンが多く、道端や橋の下で暮らしているそうです。フィリピンでは小学校は学費が無料だそうですが、彼らは学校で使うノートや鉛筆を買うこともできないので、学校に通うこともできず、そういった家庭、子供達に対して政府の援助も無いそうです。そのため、ストリートチルドレンが成長し、また子供を産んでも生活能力が無く、産まれた子供がストリートチルドレンとなり、貧しい人が減らないという悪循環が起こっているそうです。そのような現状に対し、若い世代が週末に英語を教えたり、食べ物を配給したり、ボランティア活動をしている現実に関心すると同時に我々日本人はなんて恵まれているのだろうと思いました。仕事がある、食べ物に困らない、お菓子を買える、着るものに困らない、など今まで当たり前と思っていたことがすごく贅沢に感じました。裕福な家に生まれても、貧しい家庭に生まれても子供には何の罪もないのだから、子供たちには平等にチャンスの機会を与えて欲しいと感じました。

最後に、今回の旅ではフィリピン人の人柄にも惚れた旅でした。フィリピン人はとても気さくでフレンドリーでまるで以前から知っている友達のようにすぐに親しくなれました。帰りのマニラからの飛行機は隣にフィリピン人の姉妹が座っていましたが、色々おしゃべりしながら帰ってきて、すっかり仲良くなりました。ボランティア仲間、現地のフィリピン人と短期間でこんなに友達のできた旅は初めてです。1週間も居たら日本が恋しくなるかと思いましたが、最後は帰りたくない気持ちでいっぱいでした。今回は今までにはない経験ができ、本当に有意義な夏休みになり、行って良かった！と心底思いました。

孤児院の子供達と最終日に撮影させてもらった写真です



孤児院周辺に住む子供達
毎日、道を通るたびに寄って来て
ハイタッチをしてくれました。



ホテルの前の屋台のおばちゃんと・・・
ここの揚げバナナが美味しくて一度食べたらトリコ
になりました。2日に1回は食べていました。



ご参加時年齢：20歳以下、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上
性別： 男性 女性 (該当箇所に○をお願いします。)